

慢性腎臓病（CKD）の定義

- ①蛋白尿など腎障害の存在を示す所見
- ②腎臓機能低下（推定糸球体ろ過量：eGFR60ml／分1.73m²未満）
- …①、②のどちらか、または両方が3か月以上持続する

※朝倉市の特定健診では、尿蛋白・eGFRがわかります。

～eGFR（推定糸球体ろ過量）は、性別・年齢・血清クレアチニンから算出できます～

危険度 低 → 高

【CKD重症度分類】 eGFRと尿蛋白とで判断します。

			危険度 低 → 高			
			緑	黄	橙	赤
GFR区分 (ml/分/1.73m ²)		尿蛋白区分	糖尿病	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
			高血圧・ 腎炎など	正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
			A1	A2	A3	
			(-) or (±)	(+)	(2+) 以上	
G1	正常 または高値	90以上	緑	黄	橙	
G2	正常または 軽度低下	60-90 未満	緑	黄	橙	
G3a	軽度～ 中等度低下	45-60 未満	黄	橙	赤	
G3b	中等度～ 高度低下	30-45 未満	橙	赤	赤	
G4	高度低下	15-30 未満	赤	赤	赤	
G5	末期腎不全 (ESKD)	15未満	赤	赤	赤	

CKD診療ガイド2012(日本腎臓学会編)より

この表は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクについて緑の段階を基準に、黄色、橙、赤に分類し、段階が高くなるほどリスクが高くなることを表しています。

腎機能は高度に障害されるまで、自覚症状が出ないことがほとんどです。

慢性腎臓病(CKD)は治療可能ですが、腎臓は一度悪くなってしまうと、元の状態に戻すことができません。

自覚症状に頼らず、自分の腎機能を確認することが大切です。

